



相模原グリーンローRC

伊比井 冴子

2023-2024年度

ロータリーグローバル補助金奨学生

留学先: カフォスカリ大学 (イタリア) Ca' Foscari University of Venice

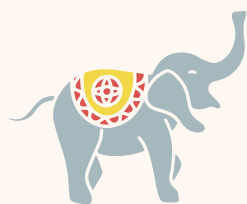
【イタリア大学院での学び】

今回改めて考えてみると、環境について人文学的に学ぶ中で、「人間とは」という事をとても深く考える機会が多いなと感じます。学んでいることは環境ですが、環境自体を学ぶだけではなく、それらを取り巻く全てのことを学んでいます。「人間とは」という、哲学的に思える分野ですが、実際には社会において全ての人があらゆる場面で考えるべき現実的な問題であると強く実感しています。「環境人文学部」という「何を学ぶ分野ですか?」とよく聞かれますが、環境学との大きな違いは「人」にいかに焦点を当てているかだと改めて再理解しました。起きている問題や数値を分析するだけではなく、より深く、環境問題を生み出し自ら解決しようとしている人間について考えを巡らせ、思考するということを常に試されている分野だと思います。個人的に、「動物が大好きで、彼らのために何ができるのか」というところから選択した分野ですが、本当に研究したい分野が見つけれられたのではないかと考えております。



【イタリアでの苦勞】

出発前からロータリークラブの皆様がたくさん支えられ始まった大学院生活ですが、旅立ってから苦勞の連続で大変なこともすごく多いのが本音です。しかし、これまでにないほどタフに、そしていい意味で完璧でなくてもいいというマインドがイタリアでの生活で身につけ、そのおかげで今まで乗り越えられたようにも思います。これまでもたくさんの国で色々な経験を積んできたと自負していたものの、それ以上に大変で研究に集中したい!と今でも思っています(笑)。ですが、そんな中で同じように苦勞している留学生の友人や、手助けしてくれる現地の友人たちがいて、協力して共に頑張ることができており、本当に恵まれていると感じました。また、上手いかわないことが多くストレスが多い中で、タイへの半期留学も実現でき、学部時代にできなかった研究も進められたことは本当に良かったです。



【タイへの留学】

学部時代にも留学へ行ったタイへ、修士課程で再び帰ることが実現できたのは大変嬉しかったです。イタリアでアカデミックな知識をインプットした上でのタイへの再留学は、学部時代とは一段と感ずることも変化しており、成長を感じることができました。また、イタリアでは履修できなかった環境に関する行政関係や国際制度について学び、世界各国から集まるクラスメイトとの実践的なディベートやプレゼンテーションは自分の考えをブラッシュアップするいい機会となりました。各国からの多くの教授人の方々ともコネクションが築け、今後のキャリアにも繋がる大きな時間であったと思います。また、自然や野生動物が残っている中で、発展と共生をいかに両立していくのかを現場で感ずることができ、一国の中で発展と保全のジレンマを日常生活の中から常に考えるような日々でした。

